令和5年度全国中学生・高校生防災会議

「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」報告書

目的

地震や火山噴火、水害など様々な災害が頻発している日本において、これからの防災や減災の担い手である全国各地の中学生・高校生を対象に、今後の防災や減災について考える機会を設け、人材の育成、防災意識と社会参画意識のさらなる向上を目指し開催しました。

事業概要

主　　催：独立行政法人国立青少年教育振興機構
主　　管：岩手県立大槌高等学校、国立岩手山青少年交流の家
特別協力：公益財団法人上廣倫理財団
後　　援：文部科学省、岩手県、岩手県教育委員会
日　　程：令和５年11月17日（金）～11月19日（日）2泊3日※遠方からの参加者は、11月16日（木）から
場　　所：国立岩手山青少年交流の家、岩手県立野外活動センター　他
参加人数：66 名（中学生6名、高校生29名、教員14名、その他関係者等17名）

参加校

九州
長崎県立諫早高等学校附属中学校
長崎県立諫早東高等学校
大分県立佐伯鶴城高等学校

近畿
京都府立東稜高等学校

東北
岩手県立大槌高等学校
岩手県立釜石高等学校
釜石市立釜石東中学校
宮城県気仙沼向洋高等学校
宮城県涌谷高等学校

関東
千葉県立館山総合高等学校

四国
徳島県立鳴門高等学校
高知県立大方高等学校

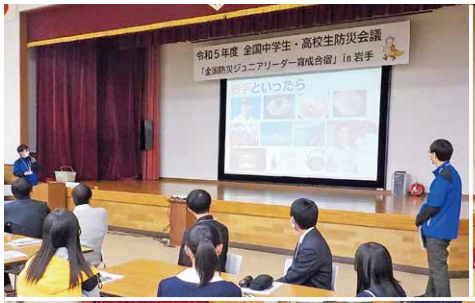
中部
暁中学校・高等学校

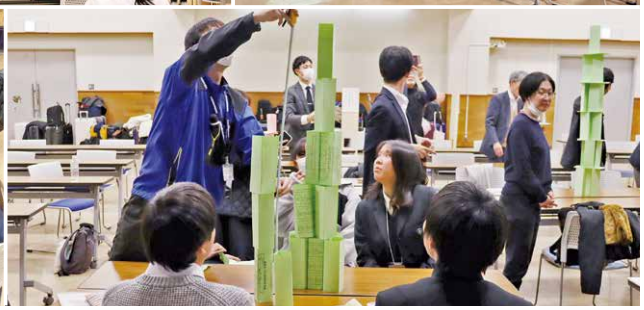
National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構

11月16日（木） 会場：国立岩手山青少年交流の家

交流会

グループに分かれ自己紹介を行う際に、文化遺産や食べ物などの“お国自慢”を交えた自己紹介を行いました。そして、「ペーパータワー」というメンバーが協力して課題に取り組むゲームを通じて、互いの緊張感がほぐれました。最後に、担当者の被災体験を聞き、当事業担当者の想いを受け止めました。





11月17日（金） 会場：国立岩手山青少年交流の家

① 9:30 開講式

開講式では、岩手山青少年交流の家所長から、これからどのように持続可能な社会を作るのか、どのように地域で実践につなげていくのかを考えてほしいとの挨拶や、主管校の岩手県立大槌高等学校から歓迎の挨拶がありました。

② 10:40 防災炊飯 「ポリ袋でカレーライスを作ろう」

高密度ポリエチレン袋を用いたカレー作りを行いました。新聞紙で食器も作成し、水の使用も極力制限し災害時の避難所等を意識した活動でした。学校も学年も違う班のメンバーも、活動を通して打ち解け合っている様子でした。

13:30 ポスターセッション

各校の防災・減災についての取組を紹介し合いました。

15:40 基調講演

「未来につなぐ 奇跡ではない釜石小の軌跡」
講師：いのちをつなぐ未来館 館長　加藤 孔子 氏
加藤氏のお話
いのちをつなぐ未来館 館長の加藤孔子氏による「未来につなぐ 奇跡ではない釜石小の軌跡」と題した講演が行われました。

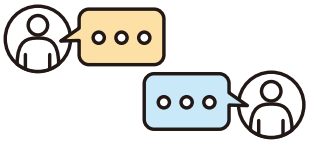
- 加藤氏は釜石小の校長在任時に被災。当時の在校児童148名は全員避難する事ができ、「釜石小の奇跡」と呼ばれました。
- 子供達は当時を振り返っても、普段の防災訓練通りに行動しただけと証言していたそうです。
- 釜石小の話は「奇跡」という言葉で終わらせるのではなく、「軌跡」としてその過程を語り継ぐ必要があると思っているそうです。
- 「『つなみてんでんこ』など、昔から伝わってきた事は大事にしなくてはならない。そして、普段から取り組んできた防災訓練にしっかり取り組む事で、非常時には状況に応じて自分で判断して、行動に移すことができる。」と述べ、「10年後に地域を支える人に、20年後に地域の防災文化を作る人になってほしい。」と訴えていました。

18:30 パネルディスカッション

「災害と向き合う ～災害体験をどう伝える、どう受け止める、どう活かす～」
ファシリテーター：防災教育学会会長/兵庫県立大学客員教授　諏訪 清二 氏
6名の学校代表の生徒とファシリテーターが、「災害体験の有無」や「災害体験をどう防災教育に取り入れるのか」などの題目に対して話をしました。
ファシリテーターからも、みんなで情報を集めて考える機会を作ることが大事である事、被災経験がなくとも人に防災に関する話を伝えることは出来る、などの話がありました。

19:40 1日の活動の振り返り

グループごとに、今日の気づきを意見として出し合い、発表しました。



11月18日(土) 会場:釜石市～陸前高田市～岩手県立野外活動センター

10:05 被災地見学 「震災学習列車」

釜石市へ移動し、三陸鉄道「震災学習列車」に乗車。ガイドの話を聞きながら、震災前の写真と震災後の景色との違いを見比べながら景色を見て回りました。　＊区間 釜石駅～盛駅

13:20 被災地見学 「防災クエスト大作戦(謎解き街歩き)」

壊滅的被害を受けた陸前高田市へ移動し、10mの盛り土の上の新たな中心市街地で、街歩きをしながら防災学習ができる謎解きクエストに挑戦しました。

13:30 被災地見学 「東日本大震災津波伝承館・震災遺構 気仙中学校」

●東日本大震災津波伝承館
東日本大震災とその津波の強さと被害について、映像や記録資料を見学しました。

●震災遺構 気仙中学校
海の近くで3階建校舎が全て津波の被害を受けた震災遺構 気仙中学校を見学し、参加者にとって身近な学校という場所が津波でどのような被害を受けたのか、改めて津波の強さを自身の目で確かめました。

16:30 ワークショップ① アクションプラン作成

19:30 ワークショップ② アクションプラン発表

（場所：岩手県立野外活動センター）

「アクションプラン作成」

グループに分かれ、アクションプラン（行動計画）の作成を行いました。グループごとに自分たちで設定した課題に対して「誰が」「何を行うのか」を「具体的な行動」として考え、模造紙や付箋を使ってまとめました。

「アクションプラン発表」

2つの会場に分かれて、アクションプランの発表を行いました。全員の前で順番に発表を行い、聞き手はその感想を付箋に書いて貼り付けていきました。最後は、全グループのアクションプランを会場の壁面に掲示して全体で共有しました。

11月19日（日） 会場：岩手県立野外活動センター

8:30 3日間の振り返り

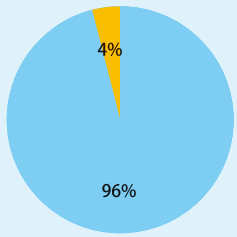
講師：防災教育学会会長/兵庫県立大学客員教授　諏訪 清二 氏

昨日のアクションプランを踏まえて、防災学習アドバイザーでもある諏訪氏から3日間の振り返りを話してもらいました。

「訓練は繰り返して体得させる。防災の第一歩は挨拶。教科を横断してどの教科でも防災教育は取り入れることができる。同世代の体験を伝える。自分の夢（仕事）と防災とのつながりを考える」など、3日間の学びのまとめと参加者へのエールをいただきました。

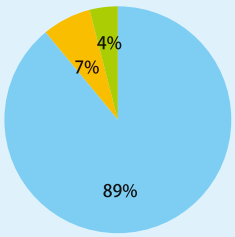
事後アンケート　生徒　（回答数=27）

Q.防災意識は向上したと思いますか



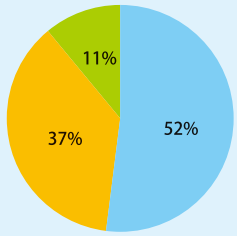
向上した　やや向上した
あまり向上していない　向上していない

Q.自分から行動しようとする力は向上したと思いますか



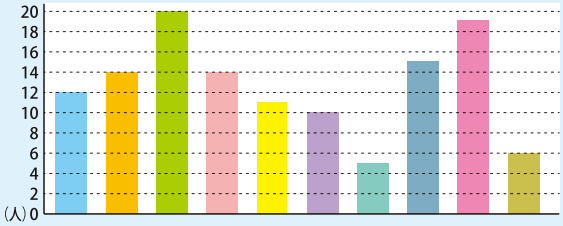
向上した　やや向上した
あまり向上していない　向上していない

Q.本事業に参加しようと思ったきっかけは何ですか



先生からの勧め　友人からの勧め
保護者からの勧め　防災に興味があったから
校外行事に参加したかったから
その他

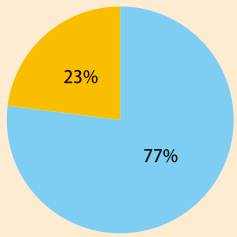
Q.本事業の活動で最も良かったと思うものを教えてください。（複数回答可）



アイスブレイク　防災炊飯
ポスターセッション　基調講演
パネルディスカッション　震災学習列車
防災クエスト大作戦　アクションプランの作成・発表
東日本大震災津波伝承館・震災遺構「気仙中学校」の見学　振り返り
その他

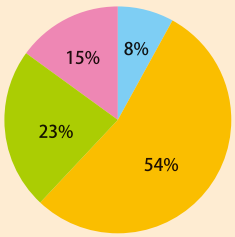
事後アンケート　教員　（回答数=13）

Q.生徒の防災意識は向上したと思いますか



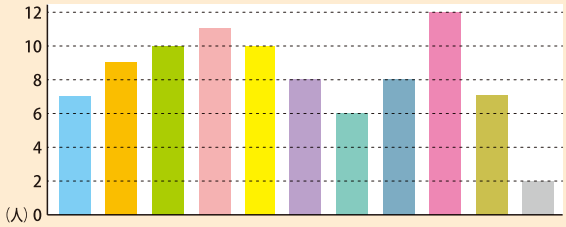
向上した　やや向上した
あまり向上していない　向上していない

Q.参加した生徒の活動内容として最も当てはまるものを1つ選んでください



生徒会活動　防災に関するクラブ、委員会
自主的に活動　総合的な学習の時間、探究の時間　その他

Q.本事業の活動で最も良かったと思うものを教えてください。（複数回答可）

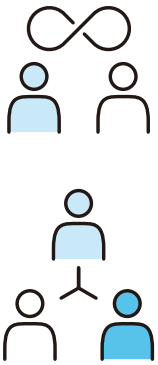


アイスブレイク　防災炊飯
ポスターセッション　基調講演
パネルディスカッション　震災学習列車
防災クエスト大作戦　アクションプランの作成・発表
東日本大震災津波伝承館・震災遺構「気仙中学校」の見学　振り返り
その他

生徒からの感想

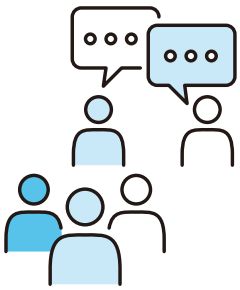
初めは人との交流することから緊張していて、他校の人との活動ばかりだったため不安だったけれど、自分から率先して回したり意見を出すことができました。また、防災に関する知識が身につき、他校が実施していることを自校でもやってみたいなと思ったり、とても貴重な経験ができました。県を超えた友達もできたし、交流、防災の面において大きく成長できたと思います。機会があればまた絶対に参加したいです。

遠い地域にある被災した建物を見に行ったりお話を聞いたり、ってなかなか体験出来ることでは無いのでとても良い経験になった。様々な地方から学生が来ているため、考えたことの無い目線や自分の地域では想定もしなかった災害などについて見聞を深められた。

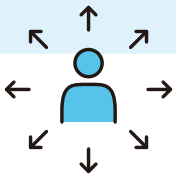


近い将来、津波の被害に遭うかもしれない地域に住んでいる自分にとって同じ立場で考えることができた。「語り・継ぐ」ことを被災していない自分でも、今回の活動を活かしてできるんだと感じ、実践しようと思った。

他校との防災学習が初めてで、その場所で起こる災害に備える学習をしていることを知りました。活動を始めてまだ間もないけれど、今までに起こった災害の恐ろしさを知り、それに備え、周りの人に伝えていきたいと思いました。



自分は震災を経験していないけど、実際の被災地などに残っているものなどをみると今まで思っていたイメージがもっと重く捉えられたと思います。被災地などで気を使って話さないようにするのではなく、後世へ伝えて行けるようにしたいなと思いました。



防災は堅苦しいものだと思っていたけど、未災地と言う言葉があるように、自分に必要なもので、関係が深いものだとわかった。

教員からの感想

私自身も、大学で防災啓発活動に取り組んでいました。一度は被災地訪問をしたいと思っていた中で今回の事業に参加することができ貴重な経験ができました。同じ時間軸の話でも場所や状況、防災意識の差によって命が左右されたということを感じさせられました。生徒さんから出た「防災教育をもっととりいれるべき」という言葉を重く受け止め、特別活動や学校行事だけでなく授業でも取り入れていきたいと思います。

生徒が聞いたり見たりするだけでなくその後のフィードバックの時間が長いことがとても良いです。アクションプランの作成で短時間であれだけ考えて言語化できるのは素晴らしいことです。せっかくいただいたこの機会をこれで終わらせるのではなく学校に戻って続けていきたいと思います。

初めての岩手で、今回の防災合宿に参加することが出来て良かったです。アクションプランを経て感じたことは、生徒よりも教員の方が漠然とした防災対策となっていることです。生徒の訴えや意見を職員会議などで提示するとともにいかに教員の心をキャッチさせるかも重要だと再認識しました。

その後の取組

気仙沼向洋高等学校（宮城県）

合宿後に家族や学校（語り部クラブ）で学んだこと・体験したことを伝えました。合宿後も継続的に語り部活動を実施しています。また、11月には「令和5年度気仙沼市津波総合防災避難訓練」に参加。小学生を対象に語り部と新聞スリッパ作りをしました。
1月1日の能登半島地震の発生し、改めて「防災教育」をする意味があると感じました。これからも、気仙沼市東日本大震災伝承館での語り部を中心にさまざまな視点で防災教育を継承していきたいと思います。

館山総合高等学校（千葉県）

生徒のアクションプランの実現のための伴走をするというアクションプランを立てました。全国防災会議に参加した生徒から他の生徒に対して研修での学びやアクションプランを報告する場を設け、グループで活動を進められるように話し合いを行いました。地域を巻き込んだイベントの開催を考えていたため、自作の防災すごろくを館山市合同防災訓練内に入れてもらい地域の方々に向けて発信しました。今後は、子ども向けのスタンプラリー形式の活動をしたいと計画しているので、春休み中に小学生や幼稚園児を招き、防災調理やゲームなどを楽しめるイベントができるように生徒の伴走を続けたいと思います。
全国防災会議に参加した生徒が校内でアクションプラン作成のリーダーとして活躍し、全国の学校の実践内容を報告しながら活動が以前より深まっていることを大変うれしく思います。全国の学校と連携しながら活動を深めていきたいと思います。

事業の成果と課題

【成果】

○参加者相互の仲間意識、学校を超えた他者とのネットワークができ、今後の行動につながるきっかけが見られました。
○対話の場面を多く設定したことで、対話する力が身につき、相互の意見を聞き取る力や折り合いをつける場面が見られました。
○被災地を実際に見て回る活動を行う事で、未災地の参加者にとっても災害が身近なものであり、その影響の大きさを知るきっかけとなりました。
○既に同世代が実践した事例や、アクションプランとして具体の実現方法を知り、また、防災教育の専門家からのメッセージを受け取ることで、高いモチベーションを持ってそれぞれの地域でのこれからの実践が期待できます。「学び」「行動」「交流」を図ることで、次代を担う青少年の育成につながっています。

【課題】

○遠方地からの参加者の移動に時間を有するため、プログラム日程等を工夫する必要があります。
○本事業内で取り組んだことが、日常の中での行動につながるような学校や機構としての支援の在り方を考えていく必要があります。

これまでの「全国中学生・高校生防災会議」

令和元年度　全国中学生・高校生防災会議
～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～

〈東北会場企画〉
日　時　令和元年8月17日（土）～19日（月）
主　管　宮城県多賀高等学校、国立花山青少年自然の家
参加校　17校
参加者　91名（中学生5名/高校生59名/教員27名）

〈熊本会場企画〉
日　時　令和元年11月15日（金）～17日（日）
主　管　熊本県立熊本第二高等学校、
　　国立阿蘇青少年交流の家
参加校　20校
参加者　74名（中学生9名/高校生41名/教員25名）

令和2年度　全国中学生・高校生防災会議
～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～

日　時　令和2年12月26日（土）
主　管　国立青少年教育振興機構
参加校　31校
参加者　166名（中学生33名/高校生80名/教員53名）

令和3年度　全国中学生・高校生防災会議
～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～

日　時　令和3年12月18日（土）・12月27日（土）
主　管　国立青少年教育振興機構
参加校　20校
参加者　102名（中学生6名/高校生75名/教員21名）

令和4年度　全国中学生・高校生防災会議
～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～

日　時　令和5年1月13日（金）～1月15日（日）
主　管　兵庫県立舞子高等学校
　　国立淡路青少年交流の家
参加校　23校
参加者　77名（中学生9名/高校生49名/教員23名）

記録集ダウンロードURL

国立青少年教育振興機構ホームページ
https://www.niye.go.jp/services/plan/bousai/archive.html

〈発行〉　国立青少年教育振興機構 教育事業部 事業企画課 事業係
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 電話番号 03-6407-7201（代表）

令和6年3月発行